

# 42 破天荒

令和 二年度版  
創刊  
第三十二号

## 四十二回生 いよいよ勝負の一年が始まります

四十二回生にとって、令和三年度入試に向けての一年が始まります。世間はまだまだコロナウイルス禍にあります。とはいえ、全国的に高校三年生は、みな同じ条件です。いや、ゴールデンウィーク明けまで休校を余儀なくされた受験生もいます。私達は恵まれている。何故ならば、危機感を与えてもらったからです。自分の努力で、自分に与えられた時間を有効活用することができるからです。そして、この状況に皆とともに諦めることがない四十二回生学年団を始め、相生高校の熱い先生が側にいます。ここで闘わず、いつ闘うきっかけを掴みますか？三月のあの厳しい折に、医療系希望者に課した課題についても、予想以上の熱い想いを見ました。勿論、まだまだ課題はあります。想いは強い分、質問に対する具体性に、伸びしろを多く残します。それらの課題は、この困難な毎日の中に、自分ならばどんなことを心掛ける、どんなことを考える、どんなことを曲げないなど、つねに具体策のヒントをくれます。

### さあ、続けよう

困難は、機会をものにしよとす者にしか与えられない。皆さんは、選ばれた人々です。その誇りと責任を持って、この困難な道を一年間、諦めることなく進みましょう。時には、焦って走ることも、悩んで止まることもあつて良い。少しかだけ弱気になって後ろを振り返ったり、下を見て欲しい。前に進む波を見誤らないようにして、自分の可能性を裏切らないで欲しいと思います。今年、新たに理科の兼田淳平先生を四十二回生に迎えました。それぞれの先生には『覚悟』というテーマで、学年当初のメッセージをお願いします。また、二年間皆さんとともに時間を共有した坂本佳耶先生から、激励のメッセージもいただきました。坂本先生もまた、相生を離れた新天地で、新たな闘いが始まります。負けるわけにはいきませぬ。

### いまの自分を乗り越える

当たり前な毎日を当たり前に過ごしつつ  
人に負けない自分の当たり前のレベルを上げよう

決して他人の責任にせず、最後に笑う勝負をしていきますよ。

学年主任 荒内秀明

## 四十二回生学年団の先生方より

副主任 垣見信三先生

人生は、しばしば織物に喩えられます。私たちは自分が置かれた状況を、「結果」として振り返る形でしかわかりません。それはまるで機織り機の前に「座らされた」織工のようなものです。作業進行中の手元を見つめる眼は狭く、縦糸と横糸の綾だけに注がれています。それが「今」を生きる私たちの視座と云えるでしょう。織り上がった部分は手元に引き寄せられ、ある程度たまって初めて、手仕事の成果として、織り込まれた柄や模様を詳しく確認し、その意味を探ることが出来ます。布に織り出された柄行きは、やり直しの効かない人生における出会いや出来事の数々であり、それらのひとつひとつは掛け替えない記憶の表象化でもあります。(超写実の画家、諏訪敦の文章を一部改変。)

さて、みなさんは、どんな織物を織り始めているのでしょうか。(織り上げたときは、仕事の完遂となり、人生の終わりとなるでしょう)縦糸が渡してある機織り機の前に座り、横糸を通して長い長い織物の「ほんの一部」を織り上げようといえます。「縦糸」は風土や文化、「横糸」は意志や営み、と言えるでしょうか。いずれにしても、織り上がりが楽しみです。ね。機織り機(相生高校)の前に「座る」のもあと一年。一本、一本、丁寧に「横糸」を通して行きながら、この世に二つとない、みごとに綾模様を織り上げてください。

一組担任 山本真輔先生

新学年新学期が始まります。この一年は君たちの人生がかかった受験の年です。受験は平等かつ、合否というはつきりした結果(勝ち負け)が出る戦いです。失敗したらどうしようという不安を感じるのは当然です。全国の受験生みんなが不安です。しかし、勝ち負けがあるから、勝つために努力をするのです。努力してもしなくても給料は一緒、みんな平等を掲げた社会主義が、労働者に効率よく働くインセンティブを失わせ、経済の停滞を招いたことを、我々は歴史の学習を通して学んでいます。だから、勝ち負けがある戦いに参加して、自分を鍛えましょう。最大限の努力をして、志望校を勝ち取るための戦いに挑みましょう。この人生がかかった戦いに、自分史上最大の努力を継続し、精一杯、最後まで戦ったという経験が、君たちの財産になります。見通しの利かない混沌の社会を生き抜く自信につながります。最後に有名な王貞治氏の名言で終わります。「努力は必ず報われる。もし報われない努力があるのなら、それはまだ努力と呼べない。」私たちは、君たちを最後まで叱咤激励していきます。一緒に頑張りましょう。

## 2組担任 前田嘉暢先生

困難を乗り越えるために必要なことは、私は「覚悟」だと思っている。私が尊敬する金本知憲氏(元プロ野球選手)の著書の一つに、「覚悟のすすめ」という本がある。最悪の状況を想定し、覚悟を決めて物事を全うすれば、何が起ころうとも想定内に収めることができ、最悪の結果にはならない、という。また、現在公開されている映画「カイジ」の2作目において、窮地に立たされた主人公のカイジに利根川が「1に勇気、2に度胸、3に覚悟だ」とアドバイスし、カイジは覚悟を決めて窮地を乗り越えた(あくまでこれは演技の一つではあるが...)。「覚悟」を和英辞典で調べてみると、意外な単語が出てくる。結局のところ、成功の秘訣はこれが十分にできているかだと納得させられる。是非、調べてほしい。これがあれば、成功への近道になるだろう。頑張り、42回生達。また、保護者の方々へお願いがあります。生徒たちが進路実現を果たせる環境を整えてあげてください。受験期は心のバランスが乱れがちになり、時には荒れることもあるかと思いますが、どうか温かく見守っていただきたく思います。進路指導に関しては、こちらに委任してください。教師、生徒、保護者が One Team になって、この一年を過ごしていきます。よろしくお祈りします。  
Get ready for our success.

3年生が始まりました。3月は新型コロナウイルスの影響で臨時休校になり、イレギュラーな日々が続きました。4月もいつようになるかわかりません。1人1人が感染予防を徹底し、通常の生活を取り戻しましょう。そんな中で受験生になる皆は、例年の受験生より自分で考え行動することが求められます。3月も休校で、個人の自主性を試されたかと思います。受験生はかなりのストレス・プレッシャーがかかります。将来のことを真剣に考えても当たり前だと思います。だからこそ上手に息抜きすることも大切です。今年の学校行事は高校生活最後の学校行事。思い切り楽しんで、ストレス発散して、いい思い出を作ってください。また、修学旅行を含め、各行事で団結してきた42回生は、はっきり言ってしんどい受験勉強にも団結して戦ってくれと信じています。周りの者も頑張っていたら自分も頑張ろうという気持ちになりませんか？今年の1年の重さは皆が1番分かっていると思うので、全員が最後の1人が受験を終えるまで、同じ方向を向いて戦っていきましょう。今年も昨年度に引き続きよろしくお願いいたします。

3組担任 平地悦子先生

## 四組担任 山村亨先生

今年も四十二回生のみなさんと同じ学年に所属することができて、大変嬉しく思います。自らの心構えとしては、昨年度同様フル回転で教科指導に全力を注ぎます。具体的には一日も早く教科書を終わらせて、受験対策演習をしなければという責任感というか、使命感に燃えていますので、みなさんも覚悟の上お付き合いください。もちろん、質問があればいつでもどうぞ遠慮なく。さて、四十二回生のみなさんにとっては、いよいよ高校生活締めくくりの一年がスタートしました。進路実現に向けて、着々と準備を進めていかなければなりません。自分が受験生だという自覚のもとに、一生懸命勉強に取り組み、そして、やるだけのことやったらと、さわやかな気持ちで結果を受け止められるように、「チーム一丸」となつて、この一年を乗り越えていきましょう。夢が大きければ大きいほど、その実現にはより多くの努力が必要です。今後、幾多の関門が自分の目の前に現れることと、思いますが、躊躇することなく、真正面からぶつかってください。夜、眠りにつく前に「今日一日頑張ったなあ」と思える、そんな毎日の積み重ねであつてほしいものです。みなさんの健康を祈ります。

## 5組担任 山本一芳先生

新型コロナ感染拡大により昨年とは違う春休みでしたが、あっという間に過ぎ去り、この日を迎えていると思います。いよいよ最終学年となりました。受験に向けて心の準備が出来ているでしょうか。3年生の一年間は、春休みに劣らないほど月日が経つのが早いです。気が付けば夏休み、さあ頑張ろうと思えばセンター試験直前となります。さて、これから受験勉強に取り組むにあたり、「人間は忘れる生き物」であることを心にとめてください。ドイツの心理学者エビングハウスは、勉強した20分後に42%を忘れ、1時間後には56%、1週間後には75%を忘れると言っています。受験勉強では苦手科目を積極的に克服しようと思いますが、取り組み方によっては落とし穴があると思います。苦手科目を意識し力を注ぎすぎると、得意科目を疎かにすることが多いからです。得意科目だからといって安心してはいけません。「人間は忘れる生物」だからこそ、得意科目が得意科目であり続けるためには、日々の振り返りは必要です。私は、苦手科目の克服だけでなく、得意科目を伸ばす意識とその学習計画が、成績全体を向上させると考えています。これからの受験勉強の参考にしてください。来春、42回生全員がそれぞれの進路実現を果たし、相高を築っていくために、微力ながらサポートしていこうと思います。1年間どうぞよろしくお願い致します。

## 最後は2年間お世話になった坂本先生からの熱いメッセージ

3年生になった皆さんへ

坂本 佳耶

高校生活最後の1年が始まりました。まずはこの1年を一緒に過ごせないこと、とても寂しく思います。皆さんと過ごした2年間で、たくさんのことを学ばせてもらいました。その中で思ったことは、皆さんには底知れないパワーがあるんだということです。例えば、修学旅行のコミュニケーションプログラム。正直、皆さんがあんなにも声を出して、声をかけあって、大盛り上がりするとは思っていませんでした。北海道の広大さがそうさせたのかもしれませんが、隠されていた力を見た気がしました。普段の生活においても、「今回は勉強頑張った!」と宣言したと思えば、定期考査でいつもの倍ほどの点数を叩き出す人もいました。「やればできるやん」と声をかけた回数は数え切れません。さて、「やればできる」という言葉がありますが、これって誉め言葉でしょうか? 「やればできるやん」と声をかけるとき、私は同時に「なんでいつもこのくらい頑張らないんだろう」と感じていました。やればできる力があっても、やってあげれば意味があります。自分の可能性を自分で潰すことのないように、やっつけてくれる人になってください。私は、いつか出会えたときに、「やっつけてきた」報告が聞けることを楽しみにしています。

2年間本当にありがとうございました。

## 副担任 兼田淳平先生

今年度から副担任として四十二回生の学年団に加わりました、兼田淳平です。皆さんは3年生になり、決意を新たに頑張っているか、と同時期に『不安や迷いが生じているかも』かもしれません。しかし、『今しかできないことをしつかりせずに将来のことばかり気にしては、いつまでたっても何にも気づきません』これは、年末に少し話題になった「女王の教室」に出てくる阿久津真矢という小学校教師の言葉です。厳しい言い回しですが、自分の中で決意をした後には、そこに向かつて目の前のことを一つ一つやり抜きました。私は、去年一年間、三年生と過ごして見聞したことや感じたことなどを、できるだけ皆さんに還元し、全力でサポートをしていきます。一年間よろしくお願ひします。

四月以降の予定  
まだまだ世間は予断を許しません  
変更にまだ可能性が  
あります  
日々の連絡の  
確認をお願ひ  
します

四月	五月
八日(水)	三日(日)
九日(木)	四日(月)
十日(金)	五日(火)
十三日(月)	六日(水)
十五日(水)	七日(木)
二十日(月)	八日(金)
二十二日(水)	九日(土)
二十四日(金)	十日(日)
二十九日(水)	十一日(月)
三十日(木)	十二日(火)
五月一日(金)	十三日(水)
五月二日(土)	十四日(木)
五月三日(日)	十五日(金)
五月四日(月)	十六日(土)
五月五日(火)	十七日(日)
五月六日(水)	十八日(月)
五月七日(木)	十九日(火)
五月八日(金)	二十日(水)
五月九日(土)	二十一日(木)
五月十日(日)	二十二日(金)
五月十一日(月)	二十三日(土)
五月十二日(火)	二十四日(日)
五月十三日(水)	二十五日(月)
五月十四日(木)	二十六日(火)
五月十五日(金)	二十七日(水)
五月十六日(土)	二十八日(木)
五月十七日(日)	二十九日(金)
五月十八日(月)	三十日(土)
五月十九日(火)	三十一日(日)
五月二十日(水)	
五月二十一日(木)	
五月二十二日(金)	
五月二十三日(土)	
五月二十四日(日)	
五月二十五日(月)	
五月二十六日(火)	
五月二十七日(水)	
五月二十八日(木)	
五月二十九日(金)	
五月三十日(土)	
五月三十一日(日)	

今更起りうる、数多くの変更に  
対してご容赦いただけ  
ます。ただ、できる限  
りの  
早期の情報提供は行  
ってまいりますので、  
ご理解ください。